いわき民報

平市田町四八　電三八一番
編輯兼發行人　千輝克巳
兼印刷人
日刊　但月曜を除く
定價一月四十円
一部一円五十錢
發行所
いわき民報社

木村氏三位で當選

最高點の榮冠は石原知事夫人に

縣教育委員選擧

教育委員二十二立候補者に對する縣民の審判は今六日早朝遂に下った、石城郡下から出馬し有力候補を傳えられていた四倉町木村守江氏は六万七千百七十一票（うち郡市から五万七千五百八十一票を獲得）を得て第三位で榮に當選、また市內平窪出身黒木喜一氏は四万二千六百一票を得たが惜しいところで次點となり一方落選した內郷町日野定利氏も十三位となつたが共產黨から立候補して二万一千六百票を稼いだのは勞組方面から支持があつたためであろう

當選	九六、八三六	石原三起子
	八四、一二二	村田利喜
	六七、一七二	木村守江
	五七、七七三	佐藤弘毅
	五一、八五四	新城猪之吉
	四八、四八三	松崎誠
次點	四二、六〇一	黒木喜一
	三八、三八六	氏家義之
	二四、六五八	安藤武
	二一、六三八	本多長兵衛
	二〇、九八九	佐藤實
	一二、五二三	成田宏司
	一一、六〇〇	日野定利
	一〇、六三六	久保喜男
	九、九九三	三浦彌平
	八、九八六	新田亮
	七、六七五	羽根田市治
	六、三八三	加藤周四郎
	五、二八五	吉田善信
	四、五四三	吉田一郎丸
	四、〇四四	大竹利雄
	三、四七〇	三浦康

で他に佐藤氏が三千二百票を得て相双地區から食込んでいた

市郡下の棄權率調べ

市二割八分三厘郡三割二分九厘

棄權を危ぶまれていた教育委員選擧も平市が二割八分三厘（無効百十五）郡部三割二分九厘（無効二千二百六）で縣下の棄權率三割四分一厘と比較するとまだ良好だつた、また各候補の郡市からの得票は別表の如く木村氏が斷然他を壓し五万七千票を獲得、續いて黒木氏一万四千票、石原氏八千三百五十八票、氏家氏七千四百票、日野氏五千票の順

決解素水本日

地勞委の斡旋のむ

四日の職場大會で決戰投票を行って

去る二十八日に始った日本水素小名濱工場のハンストは當初の六名に更に二名を加へ計八名が悲壯な斷食ストを續行成行を注視されていたがこの程「地勞委」が斡旋にのり出し四日午前五時緊急職場大會を開催、「地勞委」の斡旋案たる

（一）赤字補給金として十月十五日に一人二千円を支給する

（二）增產奬勵金一人宛千円を十二月に支給

（三）給與は會社案七、七〇〇円を八月から支給すること

の審議を續けたが紛議した爲決戰投票をする事となり遂に八五二票對二五二票で前記地勞委斡旋案を呑むことと決定こゝにハンストも解き、日素小名濱爭議は一應の解決をみるに至った

文化國家の教育確立

當選の喜びの

木村守江氏談

上位四年任期の當選をもたらすと、流石によろこびを包み切れず抱負を語る

日本の再建は何人も首肯出來る文化國家の建設にあることは云うまでもない、すべての日本人はこの目標に向って相携えて進むべきである、然し國民は果してこの理想と希望に輝いた生活を營んでいるかどうか、憂慮すべき現況にあると云わざるを得ない、この目標を失える國民に眞の指針を與え、文化的國家建設の基礎を爲すものは教育でもあると信じ、今回の教育委員選擧に立候補したものであるが、幸にして當選した上は子供達が希望と理想をもって學業にいそしむよう、又先生方もほんとうに、日本再建のため襟度をもって教壇に立ち得るようにしたい

炭鑛教育映畫

平石炭局炭鑛福利協會平支部では共催で來る十一日から左の日程で炭鑛教育巡廻映畫を實施する、フイルムは衛生關係の『無限の力石炭』『花ある毒草』『青白き騎手』なお軍政府提供による『野球をやりませう』『よい子の一日』等

十一日高萩炭鑛、十二日中郷炭鑛、十三日大日本勿來炭鑛、十四日から十六日まで常磐炭鑛、十七日古河好間炭鑛、十八日日曹赤井炭鑛

市郡下の各候補得票

	平	石城	計
石原三起子	六八八	七、六七〇	八、三五八
村田利喜	二九	三八九	四一八
木村守江	六、二四六	五一、三三五	五七、五八一
佐藤弘毅	二〇八	三、〇一二	三、二二〇
新城猪之吉	四六	二二三	二六九
松崎誠	二二	二一四	二三六
黒木喜一	一、九一四	一二、一五二	一四、〇六六
氏家義之	六三八	六、八四五	七、四八三
日野定利	二六六	四、七九六	五、〇六二

正確。安價
時計の店
サービスの街銀座街
サービスの店
誠光堂
平市銀座街　電982

日曹福島鑛圓滿解決

フリーマン少佐ら一行の斡旋で

五日石炭特別調査團長フリーマン少佐ほか齊藤平石炭局一行は問題視されている日曹福島炭鑛に向い勞働條件、死活の重要性をもつ一千三百トン達成その他の諸問題につき、勞資代表と愼重審議したが同日午後勞資間に次の條件で妥協成りこゝに円滿解決をみた

◆九月二十三日付による會社側の勞働條件を改惡する要求は一應白紙にかえす

◆組合側は全力をあげ一千三百トン出炭を確保する（本坑だけで）

◆十五番層の試掘その他の諸問題は別途協議する

一條與作氏をフ少佐讃う

立派な組合指導者

この日フリーマン少佐は數日來同炭鑛問題の斡旋に奔走した炭勞東部支部副支部長一條與作氏の行動につき讃え次の如く語った

組合指導者はいたずらに斗爭を起すことをせず、組合經營者兩方が如何にしてなり立つかということを考えなくてはならない、一條氏は常に忠實に組合指導者としての任務を遂行した

惡質ものは即時交換

炭鑛への調味料現物促進化協議

平石炭局では四日常磐炭鑛會議室に味噌醤油現物化促進協議會を開いたが、常磐、好間、大日本勿來の三大鑛は入荷順調ながら植田地區では受配者は受けぬよう質の惡いものを認め又赤井地區では用器破損ばかりか地區代表炭鑛が一括入荷している關係上目ぎれ品質低下で缺損するほか資金立替えもせねばならぬ苦しさが持ち出された結果、結局惡質ものは早速交換することと赤井地區は九月分からは各炭鑛毎に荷受けすることとした

賑った江名の街頭録音

あす全國へ中繼放送さる

いよ〱議會に提出豫定の漁業協同組合法をめぐって漁業關係者の輿論を聽く東京中央放送局一行十一名による街頭録音は、吉田平放送局長も加えて四日午後四時半から江名町漁業會前廣場で行われた、降りしきる雨にもめげず參集した人々は約百余名に達し、放送局青木アナの司會により行われ始めの內は物慣れぬためか尻込みしていたが慣れるに從って次第に質問奇問がとび出し殊に勞資對立や漁業金融問題新協同組合法への疑問等々極めて活潑化し、約四十分間に亘る街頭録音を無事終了したこの録音は七日十二時半より全國に向け放送されることとなった

初の町村農協組合長會

七日豐間町で開く

郡下初の各町村農業協同組合長會議は七日午前十時半から豐間町に開き、縣連合會各支所出張所の事業、町村農業協同組合出資增口並に貯蓄增加縣連合會未加入各組合解消並に出資增口等の件に就き協議する

空俵配給分打合

平食料事務所では八日午前十時から奴葉支所に濱通り食糧公團出張所關係者を集め、空俵の配給處分法方等を協議する

旅行案內
那須溫泉　二泊三日の旅
期日　十月十三、十四、十五日
會費　會員　一、八〇〇圓
會員外　二、〇〇〇圓
人員　二〇名
携帶品　米一升、當日の晝食
集合　十三日午前四時三十分平驛前
申込期日及場所　十月十日　交通公社
平和樂路會

「老夫婦殺しの公判」

二十日地裁平支部で開廷に

小名濱町　去る八月卅日夜共謀で就寢中の老夫婦大和田爲五郎さん（七九）同妻シンさん（七五）の兩名を毆打、布團で簀巻きにし窒息死させた茨城生れで被害者の長女の息子例の小名濱老夫婦殺し犯人櫻井十四夫（一六）及び名古屋市南區扇田町保險外務員鬼島和夫（二二）兩名の第一回公判は來る二十日午前九時から地裁平支部で志村裁判長宮發檢事係り市井辯護士立會で開廷に決定した

土藏をやらる

上小川村字片石田農大平正さん（五三）方では土藏を合鍵樣のもので開けられて男物紋付羽織はか二十三點を盗まれているのを四日朝發見、平地區署に

罰金一束

◇小名濱町竹町無職鈴木藏之助（二四）はアカギ三百匁と白米一升を物交し罰金二千五百円、◇小名濱町中明神青果物商兼雜貨商小川藤（五二）は千円、◇勿來町勿來雜貨商永島トヨ（三五）、小名濱町定西青果物商小野ヨノ（六二）及び同町下町同業金成ヨデ（四二）の三名はいづれもトマトのヤミで二千円ずつの罰金

亂暴運轉手送檢

【昨報】去る四日午後五時半ころ磐崎村上湯長谷字長倉磐崎鑛社宅附近で飲酒の上、カシ棒を振りまわして暴れ通行人の全鑛軌道夫大竹實さん（二二）の左眼に約三週間の重傷を負せたり南區社宅醫田芳美さんほか四名宅の窓ガラスや便所を破壞して平地區署にあげられた湯本町吹谷トラック運轉手草野一郎（三二）は六日身柄送檢、なお仝人は昨年八月ころも女子暴行未遂で檢擧された事もある

いわき寸言

◇教委選終る、豫定の如く豫定の顔觸が當選した、さてこれからの委員連のお手並が問題

◇納豆中毒が郡下にも出る季節と食物に御注意肝心

◇颱風ときくたびにお米の心配、大衆は何よりも食うことの心配ばかり、衣食足る日はいつくる？待ち遠しいことですナ

手くせの惡い職工

市內新川町木工吉田英雄（四〇）は本年二月ころから上小川村字風呂前木材業福地藤太郎さん（六〇）方で働くうち前後三回にわたつて丸ノコ染料原料一罐（一升入）ほか三點を持出したこと發覺四日平地區署へ、

建築金物
炭鑛用　ボールトナット
鑄鋼車輪
多數在庫アリ
注文モオ受ケ致シマス
平市新川町一八
吉野鐵工所
電話七一八番

菓子委託加工開始

今度委託加工を始めました
何卒御利用を願います

（順不同）

福助堂	馬目吉三郎	杉平
廣瀬屋	吉村專十郎	久保町
松玉堂	大內藤四郎	久保町
玉屋	大阿久政治	長橋町
愛仙堂	片岡德十郎	長橋町
大鶴屋	金成弘藏	材木町
金澤屋	水野晃	紺屋町 電三一七
相澤菓子店	相澤文之助	二丁目
名代屋	伊藤秀一	二丁目
松月堂	金子重次	田町 電二〇六
ホテイヤ	佐藤喜內	中央通り
清仙堂	水野時藏	中央通り
マツモトヤ	松本愛三	四丁目 電二一四
泉屋	石川榮	五丁目 電二〇一九
玉木屋	小駒一	五丁目
榮泉堂	鈴木唯雄	南町
榮屋	佐藤慶助	大町
石川屋	小木彥治	新川町
ニコ〱飴屋	伊藤退之助	新川町 電四四九
一心堂	倉谷清治郎	大工町
鵜沼菓子店	鵜沼五郎	六丁目
おな屋	坂本增藏	鍛田
多丸屋	先崎清春	飯野村白土

民俗座談會

下

―◉高木誠一氏を訪ねて◉―

史談會員　**鈴木光四郎**

切支丹宗禁制の定書は殘っているが、草野村の赤沼にあった坂本氏所藏の禁制のうつしは次のようであって、年代によって變り寛大になり處罰規定が少くなっていることも法制史の立場から興味ある問題である。

定（坂本氏所藏品のうつし）

きりしたん宗門は累年御制禁たり自然不審成者有之ば申出づべし、御ほうびとして、ばてれんの訴人　銀五百枚　いるまんの訴人　銀三百枚　立かへり者の訴人　同斷同宿並びに宗門の訴人　銀五百枚　右の通り下さるべし、當たび同宿宗門のうちたりといふとも申出により　銀五百枚下さるべし、

かくし置き他所よりあらわるるに於ては其の所、名主、五人組迄一類ともに罪科におこなはるべきものなり

正徳元年（二百三十七年前）五月　奉行

定（北神谷のもの）

きりしたん邪宗門の儀は堅く御制禁たり、自然不審成者有らば其の筋へ役所に申出すべし、御ほうび下さるべく

慶應四年（八十一年前）

太政官

徳政を認めない證文

徳政とは徳川末期に民間の貸借を棒引にした政令である次に示す文書には徳政を認めず、この約束は必ず守るべしと記されている。

此度末の御年貢御上納まかりならず候につき、我等抱え内、ざり田、中田一段二畝八歩の所へ金壹兩、もみお倉俵二俵借り申し候て申の年より五の年まで四年季質物立置き作られ候所實證右年あき申し候はば右の金壹兩もみ二俵相返しその田請返し申すべく候、そのうち御國貸徳政新法御座候とも猶この田、相違申すまじく候。後日のため一札如件

正徳六年（二百三十年前）三月　田主　三之助印

離縁状

この離縁狀は全國的に典型的なものであるが男女平等の現在と比較するとき今昔の感にたえない。正に三くだり半である。

其許儀縁薄候に付離別致し候。而後何方え縁付候とも不苦候依如件

文政十二年（百十年前）

岩城下小川村　柴崎万蔵

手綱町　おとらどの

わび證文

これは村の若い者が大森村のさつまいも畑に忍び入って盗み取った事に對して申譯ないとわび入れした證文である。當時はさつまを栽培していたのは大森附近であって非常に珍らしかったのである。連名で分後かかる事件が發生しないよう努力する旨を誓ったもので青少年の指導上、今日に於ても非常に參考になるので次に引用してみたい。

誤り入り一札の事

御當村さつま畑兩三度忍び入り、さつま盗み取り申し候處はからずも御とがめに預り絹屋村鈴木清、下泉崎村渡邊市十郎、同村片寄藤左衛門右三人連々おわび申し候處、早速御勘べんに相成り何とも有難き仕合せと存じ候、向後當人の儀につき御村方の、さつま畑に手入れ仕り候節は何時なりとも加判の村々罷り出できっと相辨え御村方の御難澁少しも相かけ申すまじく後日のためわび入れ一札乃如件

明治三年　連署

大森村御中

前者の通り見屆け相違御座無候　名主　高作

地券について

高木宅には次のような地券が澤山保存されている。これは民法施行前、田や畑について登記制度がなかったので、所有權と第三者對抗要件を併有する地券が必要であって、この地券によって田畑の賣買が自由に出來たのである。

地券

磐城國磐城郡北神谷字松倉三十八番地

同國同郡同村

持主　猪狩儀兵衛

一、田四畝六合一歩　地價

貳拾四円七十九錢

百分の三　金七十四錢四

厘　地租

明治十年より此百分二ヶ半

金六十二錢　地租

右檢査の通り相違無之

明治十二年四月三十日

福島縣

尚裏面には「日本帝國の人民土地を所有するものは必ず此券狀を有すべし、賣入譲渡は自由たるべし」と書いてある。

太政官覺書

明治維新となって外國との平和外交を新しい政治方針とした明治政府は外國との交際を密にしてかりそめにも外國人を殺害するような不心得がないよう次のような覺書を下したのである。

覺

今般王政御一新に付朝廷の御條理迄外國御交際の儀被仰出諸事朝廷に於て直ちに御取扱被爲万國の公法を以て條約御履行爲されらるるに付、ついては全國の人民叡旨を奉体し心得違い無之きよう仰出され爾今以後濫りに外國人を殺害し或は不心得の諸行等致候者は朝命にもどり御國難を醸成し、のみならず一旦御交際仰出され候、各國に對し御國の御維新も相立たざる次第甚だ以て不屆至極に付その罪の輕重に從い士列に在る者と雖も士籍をけづり至當の典刑に處せられ候條銘々朝命を奉じ濫りに暴行の諸行無之樣仰出され候事

三月（明治元年か）太政官

三時頃小雨となったので爐邊をかこんで興味のつきない高木氏の蘊蓄を傾けた座談を聽き厚い御接待に感謝しつゝ歸路についた。途中曾友飯島氏宅で又接待をうけ春霞の折大野村を訪ねたことなど回想しつつ、うす暗い野道を草野驛に向った。秋の雨は益々しげく降り續いていた。

（二十三年九月二十六日記）

市内や勿來にも納豆中毒

遂に製造販賣中止を命ぜらる

錦町で二名の死亡者さえ出した納豆中毒事件は六日に至り錦町のみでなく、市内白銀町ほか勿來町等々にも發生しているのが判り大きな衝擊を與えている、縣警察本部では相馬原町の中毒もあるので事態を重視、納豆の製造販賣を中止せしめるとゝもに、各地の中毒調査に全力を注いでいる

◇平市白銀町十五島チヨさん（三七）仝照子さん（一三）仝高幸君（一六）及同居人小林トメノさん（三五）の四名は三日夕刻頃から苦しみ出し猛烈な下痢から發熱し、早速志賀、難波兩病院の手當をうけたが高幸君は重態で目下志賀病院に入院中

◇仝白銀町十二、高橋正喜ちゃん（六ツ）は一日夕刻發熱したが現在は平常にもどった

◇仝白銀町一〇松崎安さん（六五）及び仝人妻文江さんの兩名も四日夕刻發熱數十回の下痢症狀を起した

◇仝町香取恒子さん（三三）及び仝武雄ちゃん（六ツ）も四日夕刻から三九度乃至四〇度の高熱を發し猛烈な下痢をして田町三非病院の手當をうけている

◇勿來町關田北町山田彦司さん（二九）仝妻美根子さん（二四）も納豆による中毒を起した旨、仝町行商前時泉醫師より六日朝平保健所に報告があった

きのう市内一齊取締り

十九店から二百五十個押收

平市署では納豆中毒事件に五日市内の納豆小賣業者六十六軒の一齊取締りを行い十九店から二百五十個を押收するとゝもに當分の間販賣停止をめいじた、これ等押收品のうち二十三個とは問題の原町製造と判りその他は相馬、郡山、仙台方面から仕入たものであつたが全部一應平保健所に分析調査方を依賴した

學校宿直用毛布申込み

地方事務所教育課では管内國中、小學校から宿直用の毛布布團の需要申請を受付け中であるが申し込み期間は八日までとなっている、値段は毛布（スフ三分混度）二千円程度布團（銘仙）は五、六千円程度である

植田の濁酒密造を檢擧

植田町後宿無職長南茂男（五五）は八月十五日頃から濁酒を密造していたことが發覺、五日植田署に檢擧されたが、自宅から濁酒二斗檢三本、及び東京方面へ送るため荷造濟のカメ五本六斗、粕取り入り小瓶三箱（七十八本入五升）のほか更に釀造用壓力計、蒸溜器等も押收された

手長い二少年

高久村下高久字前の内の十八少年二名は去月二十一日夜仝村製鹽業高橋忠夫さん（二二）所有の腕時計一個を失敬したほか百軒から衣類ゴム製草履など十六點を盜んでいた事發覺四日平地區署員に御用

時代の脚光浴びて

市内に誕生の新興會社二つ

戰い終つて三年、石城地方の中小商工業の中心地平市にいま時代の脚光を浴びて誕生した新興會社二つが戰後の地方產業界へ登場して關心を呼んでいる、その一つは輸出向き靴下の製造工場として東北地方初の商工省指定となった月見町坂本產業株式會社で他はアミノ酸工場として本縣唯一の農林省指定を受けた久保町磐城アミノ酸株式會社である

輸出向絹靴下製造

商工省指定坂本產業株式會社

坂本產業株式會社（社長坂本兼次郎氏）はかねて平市月見町五八片倉製糸の隣接地に纖維工場を新築中にあったが今回漸く建物の一部完成した木造二階建一七四坪の堂々たる偉容で近くメリヤス製造機械九十台を据付け十一月初旬から纖業の豫定で商工省に原絹の配給を申請することになった、同工場は輸出向きの靴下の製造を主眼とした東北地方最初の商工省指定工場であるが國內向けの更生メリヤス類も製造する筈である、現在資本金は十九万五千円であるがこれを改組し大會社組織に變更の準備中であり、更に第二期事業として資本金五百万円を以て常北紡績株式會社創立準備も成り左記役陣容を以って誕生、目下職工の選定中だが、これが二百五十坪の工場を新築し、紡績機械三百錘を据付け遠からず纖業の豫定であるが、設備費に相當多額を要するので資本金三千万円に增資の計劃を進めている、本紡績事業は輸出向きのもの外國內用特に本縣の需要を充足するためガラ紡の製織や委託加工も行い還元配給用品として纖維製品難を緩和する大きな役割を果す筈で、今後の發展と活躍を期待されている

平市としては右兩會社の出現によって一躍工業都市への飛躍の感を深くし市の發展向上に稗益する處甚大である

坂本社長は草野村出身でさきに平市八幡小路に於いて軍手軍クツ下など纖維加工事業を營んでいたが、戰時中の昭和廿年政府の方針に隨って岩手縣花卷市外石谷鳥に移住、同地に工場を新設今日に至った成功者であるが、故鄉本縣の纖維事業の振はないのを遺憾とし同事業を通じて故山の人々に最後の御奉公をしたい念願から一生の事業としてあらゆる困難を克服して本事業を推進しているものである、尚右工場の建築は鹽谷工業所鹽谷茂雄氏が行ったものである、右について坂本社長は語る

第一期事業の紡績工場が完成すれば糟紡から落毛處理まで一貫作業を行いその間無駄のない經濟的作業によって縣民各位に安くて暖かい品物を出して喜んでもらい度いと願っている次第です

常北紡績の陣容

◇會長坂本兼次郎◇副會長杉本英男◇社長坂本繁◇專務坂本豊◇常務深井一三、高橋正次郎、監査役野出清松木治作◇取締役坂本さよ橫山萬藏、高橋龜松

十二時間で醬油製造

期待される磐城アミノ酸會社

市內久保町磐城アミノ酸株式會社（社長會川延太郎氏）は今月初旬農林省が全國で四十六工場をアミノ酸工場として指定した中に本縣から唯一の生產工場として指定を受けた月產一万八百石という近代裝置を誇る新會社で資本金は十九万五千円、建坪百七十五坪本格的操業開始は十二月からと豫定されている、同工場の狙いは一年半もかゝって造る醬油を僅か十二時間でスピード製造しようとするだけに現下食糧界の尖端を行く花形工場である

同工場の生產工程は先づ脱脂大豆を分解槽に入れ、ボーメ十二度合成鹽酸水を加えて十二時間百二十度に加熱すると同大豆は蛋白質に分解するので更にこれを七十度位に冷却し鹽酸に對し六割のソーダ灰などのアルカリ性のものによってこれを中和し攪拌せる、即ちこれがアミノ酸でこれを濾過すると製品としてのアミノ酸液が出來上るものでこのアミノ酸の成分は味の素であるグルタミン酸ソーダサドリームが半分以上も含まれているためこのまゝ使用しても味の素はいらないというところに特徴があり街で賣っているアミノ酸と稱する代用醬油自身が實はこうした製法によって製造されたものでなく單にアミノ酸は臭いとか美味しくないなどというのは所謂この代用品を指しているもの

こうした復雜な製法を行う同工場では分解室、中和室、壓搾室のほか研究室も一應完備されており良品の製造に懸命である、農林省では五ヶ年計畫で現在配給醬油を廢し順次アミノ酸をこれに代えることになっており同工場の製品は十二月ごろから一般にも配給になる見込みだが公定も醬油より二割安く大豆一石に對し醬油は三十四石、アミノ酸は規格通り窒素分一%として四十二石（これを醬油並の〇、七%とすれば更に三割の增）でこれを原料より完全に製品化するまでに三日間、現在更に工場の增設工事中なので完全に操業すれば市內の配給は僅か三日位で製造の充分間に合うことになっている

勞基法違反で送檢

小名濱造船所の徒弟制度問題

【既報】二十八日、今なお封建的徒弟制度を行っていたため平勞働基準監督署の取調べをうけていた小名濱町古港有限會社小名濱造船所長藥谷寅之助（五五）氏はその後の調査の結果

（一）徒弟達に強制貯金をさせていたこと

（二）有給休暇を與えなかったこと

（三）週休制を勞基法に基いて行わなかったこと

（四）二十歳以下の者が二十歳に達した時にはその後二年間のお禮奉公を行う義務の雇用契約をなしたこと

（五）勞基法に基く休業手當等を支給しなかったこと

等以上の五項目が明かに勞基法違反となった爲六日書類送檢された

職人を求む
上原時計店
平驛前　電二三

折角投票しても無効になる程無駄なものはないが今度の調査で平市の場合を見ても無効百十五票があった、この內譯を見ると何人を記載したかを確認し難いもの四十八、白紙投票、雜事を記載したもの各二十四、候補者以外の氏名を書いたもの九、二人以上の名前を書いたもの四、氏名のほか余見なことを書いたものの三、單に丸點や名刺まで貼付したもの、議事堂の畫を書いたものなど各一點があり大切な一票を無駄にしている

買受專問
和洋服　絕對五割高買入中
特に　いくら高くとも欲しい品
若向お召・大島・錦紗・丸帶・婚禮衣裳
高級背廣三組・オーバー
希望により一時金融致します
平市大町通り　鈴本商會

社交に家庭に
ハート美人
（絶体安全）
"産制と豫防"
各薬局にあり

各種ミシンの販賣と修理
平和通り
三浦商會ミシン部
電八六四番

優良和洋家具、建具、襖
製造並に修理
片寄製作店
平市五丁目四　電四八四番
お氣に召した調度品が澤山陳列してあります
一度御來店御覽下さい

安いから賣れるいづみやの
ライターとケース
只今特賣中の
百圓のライターとケース
大好評
平驛前　電三四八番
いづみや

開店
喫茶　憩（いこい）
映畫のお歸りには
お立寄り下さいませ
一町目兩替通り

外科
産婦人科
入院隨意
木村將義
木村寅次郎
木村病院
平市新川町一九（電一六四）